

■主催者代表あいさつ

新潟市長 篠田 昭

皆さん、こんにちは。今日は天地人のふるさと講演会に、本当に大勢の方からお集まりいただきましてありがとうございます。本当は、もっと大勢の方から申し込みを受けていたのですが、1日ちょっとで満杯になったということで締切をさせていただきました。

いよいよ、あと1か月ちょっとで大河ドラマ「天地人」が始まるということで、1月4日午後8時、ここにいらっしゃる方には申し上げるまでもないのですが、新潟市民の多くの方から、NHKさんにチャンネルを合わせていただきたい。「篤姫」がなかなか好調でございますので、「天地人」もそれを引き継いで、特に新潟市・新潟県の視聴率がものすごく高いということを示したいなと思っております。

今日は、学芸員そして火坂雅志先生から、「天地人」の中で新潟湊と天地人はどういう関係なのかということをおまわり把握しきっていないと思っております。そういう面で、今日は、テーマを「新潟湊と直江兼続」に絞ってお話をしてもらうと思っております。私どもは今まで新潟湊は千年以上の歴史があるみなとまちです、例えば延喜式に出ていますとか、あるいはその後、堀直寄が元和のまちづくりをやりました。そして、牧野長岡藩が明暦のまちづくりをやって、今の新潟のまちのもとを作りました。その中で、常に新潟湊は、町人自治によって治められていたということをおまわり申しておりましたけれども、その前はどうかなのだろうという、少し堀直寄の前が抜けていたかなと思っております。

私は、新潟湊が大きく発展したのは、上杉の湊になったということが決定的に大きかったのではないかと思います。まず、上杉謙信が越後を平定する、このときに新潟湊は上杉の湊になった。そして上杉の時代に「新潟」と、当時は「にいかた」と読んだらしいですけれども「にいかた」という名前が初めて登場したと、学芸員に教えられたような気がするのですが、あとで確認していただきたいと思っております。

そして、一時は、越後が大変に乱れたわけですが、それを統一したのが上杉景勝、それを助けたのが直江兼続ということになるわけですので、その中

でも最大の越後の戦いは新発田重家と、そして上杉の戦いであった。足かけ7年戦ったということですから、大変な内乱だったと思いますが、その中で5年間は新潟湊の争奪戦だったと聞いております。新潟湊を制すれば、越後を制することができるということを両方の武将がよく知っていたのだらうと思います。また、新潟湊を押さえたことで上杉は経済的にも優位に立ち、さらに佐渡を統一して、越佐統一ということで、佐渡の銀山などを活用し、上杉の経済力を大変強化した。我々は、新潟湊は上杉を語るうえで欠かせないポイントなのだと、今日、おそらくみんなが確認できるのではないかと思います。もちろん、天神山城も大事ですし、直江川と呼ばれた中ノ口川も大事ですが、我々はまず新潟湊、これが上杉を語るうえで欠かせないのだということを今日、いろいろ勉強して、それをまた皆様から大勢の方に発信をしていただきたいと思います。

今日のシンポジウム、私も大変楽しみにしております。最後までご熱心に参加いただいて、そして来年の1月から「天地人」を新潟市民で盛り上げるというつもりで頑張りたいと思います。是非、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。